菊本副院長の 漢方問答　その54

問　「肥満の漢方治療とはどのようなものですか？」⑥

答　肥満の漢方治療について、お話を続けます。表の「水太りタイプ」の二番目、越婢加朮湯についてお話しします。

越婢加朮湯は、漢方の重要な古典である「金匱要略」に登場します。構成生薬は、麻黄、石膏、生姜、大棗、甘草、白朮です。

麻黄、石膏、生姜、大棗、甘草の組合せで「越婢湯」というお薬になります。越婢湯は、金匱要略の「水気病」という、水の流れが悪くなって生じる病に対する治療法として登場します。「寒気がして、からだ中がむくみ、のどは渇かず、汗が自然と出て、あまり発熱していないときに使用する」と記載されています。

図は江戸時代に出版された「腹證奇覧翼」に掲載されている、越婢湯の腹証図です。胸の前面に所見があります。ここに熱がこもっているのですが、同時に、水の流れが悪くなっていて、からだの表面がむくんでいます。からだの表面が水びたしになっていますから、寒気がします。また、水が少なくなってはいませんから、のどは渇きません。からだの表面の水を処理するために、自然と汗が出ています。確かに熱がこもっているのですが、むくんでいるため、外から体温を測定しても、さほど高い熱ではないのです。越婢湯は、麻黄と石膏が主役で、麻黄が、からだの表面のむくみを、汗として排出します。石膏が熱を冷ます作用があります。この越婢湯に白朮を加えたのが「越婢加朮湯」です。白朮は、おへそと胸の間あたりのむくみをとります。要するに、越婢湯は主に上半身のむくみと熱に有効ですが、それに加えて、おなかのむくみにも有効です。

肥満の頻用処方

固太りタイプ

防風通聖散、大柴胡湯、大承気湯

水太りタイプ

防已黄耆湯、越婢加朮湯、九味檳榔湯

瘀血を伴う場合

桃核承気湯、桂枝茯苓丸

気逆・気鬱を伴う場合

柴胡加龍骨牡蠣湯、桃核承気湯、
加味逍遥散、抑肝散、半夏厚朴湯

（日本東洋医学会、「漢方医学テキスト」）

皆さまから漢方に関する質問を募集しています。はがきまたは電子メールで住所、氏名（ペンネーム）、電話番号、年齢を添えて、最終ページに記載の住所またはEメール:information@ideshita-clinic.jpのいでしたクリニックとわえもあ編集係まで送付ください。